

デーヴォ ガイド



2024.1.15-21

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



6:14 さて、イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にも入った。人々は言っていた。「バプテスマのヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行う力が彼のうちに働いているのだ。」

6:15 ほかに人々は、「彼はエリヤだ」と言い、さらにほかの人々は、「昔の預言者たちの一人のような預言者だ」と言っていた。

6:16 しかし、ヘロデはこれを聞いて言った。「私が首をはねた、あのヨハネがよみがえったのだ。」

6:17 実は、以前このヘロデは、自分がめとった、兄弟ピリポの妻ヘロディアのことで、人を遣わしてヨハネを捕らえ、牢につないでいた。

6:18 これは、ヨハネがヘロデに、「あなたが兄弟の妻を自分のものにするのは、律法にかかっていない」と言い続けたからである。

6:19 ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺したいと思いつながら、できずにいた。

6:20 それは、ヨハネが正しい聖なる人だと知っていたヘロデが、彼を恐れて保護し、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、喜んで耳を傾けていたからである。

6:21 そのころが、良い機会が訪れた。ヘロデが自分の誕生日に、重臣や千人隊長、ガリラヤのおもだった人たちを招いて、祝宴を設けたときのことであった。

6:22 ヘロディアの娘が入って来て踊りを踊り、ヘロデや列席の人々を喜ばせた。そこで王は少女に、「何でも欲しい物を求めなさい。おまえにあげよう」と言った。

6:23 そして、「おまえが願う物なら、私の国

の半分でも与えよう」と堅く誓った。

6:24 そこで少女は出て行って、母親に言った。「何を願いましょうか。」すると母親は言った。「バプテスマのヨハネの首を。」

6:25 少女はすぐに、王のところに急いで行って願った。「今すぐに、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて、いただきとうございます。」

6:26 王は非常に心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、少女の願いを退けられなかった。

6:27 そこで、すぐに護衛兵を遣わして、ヨハネの首を持って来るように命じた。護衛兵は行って、牢の中でヨハネの首をはね、

6:28 その首を盆に載せて持って来て、少女に渡した。少女はそれを母親に渡した。

6:29 このことを聞いたヨハネの弟子たちは、やって来て遺体を引き取り、墓に納めたのであった。

聖霊様は主の真理を伝える者の味方です。イエス様の宣教のためにも聖霊様は多くのみわざをなさいました。「悪霊を…追い出し…いやした。」とあります。

しかし一方ヘロデは悪霊によって支配されている者で、色欲によって間違った結婚をし、その結果、神の義人を殺してしまいました。聖霊によって支配されるなら、愛、喜び、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制といった素晴らしい恵みがあるのです。

ヘロデはここでは約束を果たしましたが、それはもともと間違った約束であり、決して誠実とは言えないものです。「自分が誓ったこと」も「列席の人たちの手前」も、全てが悪を行う口実になってしまったのです。

私たちは聖霊に働いていただけるように歩みましょう。聖霊に聞く習慣を身に付けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16日 火曜

マルコ



6:30 さて、使徒たちはイエスのもとに集まり、自分たちがしたこと、教えたことを、残らずイエスに報告した。

6:31 するとイエスは彼らに言われた。「さあ、あなたがただけで、寂しいところへ行つて、しばらく休みなさい。」出入りする人が多くて、食事をとる時間さえなかったからである。

6:32 そこで彼らは、自分たちだけで舟に乗り、寂しいところに行った。

6:33 ところが、多くの人々が、彼らが出て行くのを見てそれと気づき、どの町からもそこへ徒歩で駆けつけて、彼らよりも先に着いた。

6:34 イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのもようであったので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。

6:35 そのうちに、すでに遅い時刻になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところで、もう遅い時刻になりました。」

6:36 皆を解散させてください。そうすれば、周りの里や村に行つて、自分たちで食べる物を買うことができますでしょう。」

6:37 すると、イエスは答えられた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」弟子たちは言った。「私たちが出かけに行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」

6:38 イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて来て言った。「五つです。それに魚が二匹あります。」

6:39 するとイエスは、皆を組に分けて青草の

上に座らせるように、弟子たちに命じられた。

6:40 人々は、百人ずつ、あるいは五十人ずつまとまって座った。

6:41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂き、そして人々に配るように弟子たちにお与えになった。また、二匹の魚も皆に分けられた。

6:42 彼らはみな、食べて満腹した。

6:43 そして、パン切れを十二のかごいっぱい集め、魚の残りも集めた。

6:44 パンを食べたのは、男が五千人であった。

「休みなさい」ということばはマルコだけに記されています。イエス様はみ父の働きを地上で力強く進める、真の有能なしもべですが、このように人の真理や現実や健康状態をも考慮してこそ、主のわざが進められるとうことでしょう。私たちも主の働き手として、健康や精神状態を互いに考えつつ、いたわりつつ前進して行きましょう。

しかしイエス様ご自身は、「深くあわれみ」とあるように、ご自分の休みよりも人々への愛がまさっていました。そこで空腹な人々に奇跡を用いて食事を与えたのですが、これは単にあわれみから行ったことならば、その後も未来永劫まで続けなければならなかったでしょう。イエス様は神の国を宣べ伝えるために、このようなみわざを行ったのです。

イスラエルが荒野でパンを食べたように、イエス様もパンを与える方であり、またそのパンは永遠の命のためのパンであるということを表すためです。またそれは12のかごを満たすように、12のイスラエル部族を満たすものであり、さらには有り余る恵で異邦人をも救いで満たすということです。

弟子たちは当初、自分たちが与えるとは考えて

いませんでした。しかし、主のみわざによって与える人となったのです。私たちが恵をもらうだけでなく、与える経験をしつつ、さらにそこから神の国の教えと力をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 水曜

マルコ



6:45 それからすぐに、イエスは弟子たちを無理やり舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダに先に行かせて、その間に、ご自分は群衆を解散させておられた。

6:46 そして彼らに別れを告げると、祈るために山に向かわれた。

6:47 夕方になったとき、舟は湖の真中にあり、イエスだけが陸地におられた。

6:48 イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。

6:49 しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。

6:50 みなイエスを見ておびえてしまったのである。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

6:51 そして、彼らのいる舟に乗り込まれると、風はやんだ。弟子たちは心の中で非常に驚いた。

6:52 彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。

6:53 それから、彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着き、舟をつないだ。

6:54 彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついた。

6:55 そしてその地方の中を走り回り、どこでもイエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運び始めた。

6:56 村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、人々は病人たちを広場に寝かせ、

せめて、衣の房にでもさわらせてやってくださいと懇願した。そして、さわった人たちはみな癒やされた。

イエス様は多くの人をあわれんで、様々は働きをなさいました。弟子たちにとっては、主がそばにおられないということが、不安や恐れの原因になりました。常に愛を持ってそばにいて下さるのですが、そのイエス様が遠く感じてしまったようです。

そして彼らには困難が襲いました。夜明け前の闇の中で、「向かい風のために漕ぎあぐねている様子は、私たちの人生のようです。そのような時に主への信頼が明らかになります。

弟子たちのように主になんとかして欲しいのに、問題ばかり見て、主がそばにおられるのに気づかないのです。主がいつもそばにおられることを知りましょう。主が「しっかりしなさい。わたしだ。おそれることはない。」と力強く言ってくださる声を聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 18日 木曜

マルコ

7:1 さて、パリサイ人たちと、エルサレムから来た何人かの律法学者たちが、イエスのもとに集まった。

7:2 彼らは、イエスの弟子のうちのある者たちが、汚れた手で、すなわち、洗っていない手でパンを食べているのを見た。

7:3 パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わずに食事をするのではなく、

7:4 市場から戻ったときは、からだをきよめてからでないと食べることをしなかった。ほかに、杯、水差し、銅器や寝台を洗いきよめることなど、受け継いで堅く守っていることが、たくさんあったのである。

7:5 パリサイ人たちと律法学者たちはイエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えによって歩まず、汚れた手でパンを食べるのですか。」

7:6 イエスは彼らに言われた。「イザヤは、あなたがた偽善者について見事に預言し、こう書いています。『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。』」

7:7 彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。』

7:8 あなたがたは神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っているのです。」

7:9 またイエスは言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを保つために、見事に神の戒めをないがしろにしています。

7:10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない』と言いました。



7:11 それなのに、あなたがたは、『もし人が、父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は、コルバン（すなわち、ささげ物）です、と言うなら——』と言って、

7:12 その人が、父または母のために、何もしないようにさせています。

7:13 このようにしてあなたがたは、自分たちに伝えられた言い伝えによって、神のこゝろを無にしています。そして、これと同じようなことを、たくさん行っているのです。」

律法学者やパリサイ人は自分たちが律法を守っているという自負心があったので、イエス様がその通りではないことを非難しました。しかし、イエス様は律法の本質を求めておられました。

第一は心です。心を主に向け、きよめられなければ何の意味もありません。律法を守っているから大丈夫という考えでは、自分の心の問題に気づくことはないのです。

第二は本当の戒めです。「コルバン（すなわち、ささげもの）になりました」という言い訳を用意して、律法を守っているかのように見せかけても、律法の基本であるモーセの十戒をないがしろにするなら、本末転倒なのです。

イエス様は私たちの心をごらんになります。また実際生活をごらんになります。自分では間違いない生活をしているようでも、自分の足りなさを認めつつ謙遜に生き、主のみこころを行いましょ。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 19日 金曜

マルコ



7:14 イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、わたしの言うことを聞いて、悟りなさい。

7:15 外から入って、人を汚すことのできるものは何もあります。人の中から出て来るものが、人を汚すのです。」

7:16 【本節欠如】

7:17 イエスが群衆を離れて家に入られると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。

7:18 イエスは彼らに言われた。「あなたがたまで、そんなにも物分かりが悪いのですか。分からないのですか。外から人に入って来るどんなものも、人を汚すことはできません。

7:19 それは人の心には入らず、腹に入り排泄されます。」こうしてイエスは、すべての食物をきよいとされた。

7:20 イエスはまた言われた。「人から出て来るもの、それが人を汚すのです。

7:21 内側から、すなわち人の心の中から、悪い考えが出て来ます。淫らな行い、盗み、殺人、

7:22 姦淫、貪欲、悪行、欺き、好色、ねたみ、ののしり、高慢、愚かさで、

7:23 これらの悪は、みな内側から出て来て、人を汚すのです。」

律法など外面的なことを気にかけて、またはその形だけに心を配り、自分を正当化している人や成長できない人に対してイエス様が語っておられます。外部のものがどうであっても、その人のきよさを決定付けるのは心の内側であるということです。

私たちは、自分の環境や、周囲の人に自分が左右されて、仕方なく罪を犯してしまったのだと感ずることもあります。しかし心の内側が大事であって、そこを神様から守っていただく必要があります。

またはそこを守っていただくなら、きよい生き方ができるのです。弱く自分の意思や決心だけでやろうとしないで、弱さと罪を認めつつ、主の憐みを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20日 土曜

マルコ



7:24 イエスは立ち上がり、そこからツロの地方へ行かれた。家に入って、だれにも知られたいかと思っておられたが、隠れていることはできなかった。

7:25 ある女の人が、すぐにイエスのことを聞き、やって来てその足もとにひれ伏した。彼女の幼い娘は、汚れた霊につかれていた。

7:26 彼女はギリシア人で、シリア・フェニキアの生まれであったが、自分の娘から悪霊を追い出してくださいようイエスに願った。

7:27 するとイエスは言われた。「まず子どもたちを満腹にさせなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」

7:28 彼女は答えた。「主よ。食卓の下の小犬でも、子どもたちのパン屑はいただきます。」

7:29 そこでイエスは言われた。「そこまで言うのなら、家に帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」

7:30 彼女が家に帰ると、その子は床の上に伏していたが、悪霊はすでに出ていた。

7:31 イエスは再びツロの地方を出て、シドンを通り、デカポリス地方を通り抜けて、ガリラヤ湖に來られた。

7:32 人々は、耳が聞こえず口をきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださいと懇願した。

7:33 そこで、イエスはその人だけを群衆の中から連れ出し、ご自分の指を彼の両耳に入れ、それから唾を付けてその舌にさわられた。

7:34 そして天を見上げ、深く息をして、その人に「エパタ」、すなわち「開け」と言われ

た。

7:35 すると、すぐに彼の耳が開き、舌のものが解け、はっきりと話せるようになった。

7:36 イエスは、このことをだれにも言ってはならないと人々に命じられた。しかし、彼らは口止めされればされるほど、かえってますます言い広めた。

7:37 人々は非常に驚いて言った。「この方のなさったことは、みなすばらしい。耳の聞こえない人々を聞こえるようにし、口のきけない人々を話せるようにされた。」

イエス様は「小犬に投げてやる」などと、失礼な言い方をなさっていますが、それは彼女がギリシヤ人であって異邦人だからです。旧約時代は救いはイスラエルだけと考えられていました。イエス様はこの女性の信仰を見るために、そのようなことを言ったのです。

この女性は、イエス様が自分を含めた全民族のための救い主であることを知って、求め続けました。また神はイスラエルを救った後に、そのあまった「パンくず」でさえ十分に異邦人を救う力があると信じていました。

その点をイエス様は認めてくださったのです。私達も主イエスの絶大な力を信じぬぎましょう。一度は否まれるように感じるようなことがあっても、主に食い下がりをしましょう。

この耳が不自由な人の記事もまた、信仰の状態を象徴するような出来事です。実際に障害があることが問題なのではありません。霊的に見えないことが問題なのです。イエス様はそのことに思い至って、「深く嘆息」されたのでしょうか。

この話せるようになった人の行動は、その後の主イエスの立場を悪くするおそれがありましたが、伝えずにはいられないという思いは見習うべきです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8:1 そのころ、再び大勢の群衆が集まっていた。食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。

8:2 「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。」

8:3 空腹のまま家に帰せたら、途中で動けなくなります。遠くから来ている人もいます。」

8:4 弟子たちは答えた。「こんな人里離れたところで、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができるでしょう。」

8:5 すると、イエスはお尋ねになった。「パンはいくつありますか。」弟子たちは「七つあります」と答えた。

8:6 すると、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。それから七つのパンを取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、配るようにと弟子たちにお与えになった。弟子たちはそれを群衆に配った。

8:7 また、小魚が少しあったので、それについて神をほめたたえてから、これも配るよう言われた。

8:8 群衆は食べて満腹した。そして余りのパン切れを取り集めると、七つのかごになった。

8:9 そこには、およそ四千人の人々がいた。それからイエスは彼らを解散させ、

8:10 すぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方に行かれた。

8:11 すると、パリサイ人たちがやって来てイエスと議論を始めた。彼らは天からのしるしを求め、イエスを試みようとしたのである。

8:12 イエスは、心の中で深くため息をついて、こう言われた。「この時代はなぜ、しるしを求めるのか。まことに、あなたがたに言います。今の時代には、どんなしるしも与えられません。」

8:13 イエスは彼らから離れ、再び舟に乗って向こう岸へ行かれた。

イエス様は人々を「かわいそうに」思われましたが、そのみわざには目的がありました。それは神の国の真理を教えることです。ですからそのみわざは、パリサイ人が求めるような「しるし」ではないのです。主のみわざを求めるとき、自分勝手な求めではなく、主の「みこころ」として、それを求める必要があるのです。

パンは始め少なかったのですが、7つあったということは、7は完全を表す数字ですから、それで十分であったということです。少ないものでも、それを真心から主にささげるなら、また主がそれをお用いになるなら、十分なのです。

また余ったものを集めてもまた7つのかごを満たしました。主のみわざがどれほど多くの人々を満たすかがわかります。たとえ余りもののように感じても、主の祝福は十分であることを知って、感謝と満足の人となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

